

東京都無線通信職 小笠原水産センター無線通信のご案内

1

センターの役割と無線通信職

小笠原水産センターは、小笠原諸島海域を中心に、水産資源や生育環境等の研究を行い、漁業者や都民の生活を支援しています。

無線通信職として採用されると、陸上無線局（指導用海岸局）か船舶無線局（漁業調査指導船「興洋」）のいずれかに配属されます。

採用後は、陸上勤務と海上勤務間での異動や、東京都庁舎（新宿）、大島や八丈島など他の島へ転勤する場合があります。

2

陸上無線局の仕事

陸上無線局の主な業務は、小笠原近海で操業または航海を行う漁業調査指導船、漁船および一般航行船舶に対し、気象警報や航行警報などの情報提供をすることで、操業と航海の安全確保に努めることです。

(1) 無線通信職の業務

- ① 漁海況調査に関する通信
- ② 気象通報
- ③ 航行警報、航行安全に関する通信
- ④ 遭難、緊急通信 など

(2) 無線通信職の勤務

陸上無線局は、年間365日、8時から17時の限定開局により通信業務を行っています。このため、勤務体制は3名体制による交代制の不規則勤務です。



区分	父島漁業指導用海岸局
局舎所在地	東京都小笠原村父島字清瀬
通信時間	8:00~17:00 (必要に応じ、6:00~21:00)
対象	官庁船1隻、地元漁船など



無線局舎通信室

3

船舶無線局（漁業調査指導船）の仕事


漁業調査指導船の主な業務は、水温・塩分・潮の流れや速さなどの海洋環境測定、資源管理に必要な情報を得るための漁獲調査や洋上での生態調査、海底地形の調査、漁業取締りなどです。

(1) 無線通信職の業務

- ① 定期交信業務（定時通報受信、船間波聴取、海洋観測結果の発信等）
- ② 緊急放送への対応（緊急放送の受信、陸上無線局への発信等）
- ③ 取締り業務（違反操業船に対する発信・交信、報告交信、曳航に係る交信等）
- ④ 無線機器の整備 など

(2) 無線通信職の勤務

基本は朝、港を出て夕方に仕事を終えて港に帰る日帰りですが、調査内容によって、早朝に出港することや長期航海になることもあり、その間は船の中で寝泊りすることになります。

所属	小笠原水産センター
船舶名	興洋 
トン数	87トン
無線設備	SSB 75 W、SSB 25 W、 SSB10W、SSB1W、国際VHF、GMDSS
乗員数 (うち無線通信職)	9名(1名)

4

職場からのメッセージ

当センターでは、陸上無線局の運営を通じて、小笠原管内の漁船のみならず、小笠原諸島周辺を航行する漁船、船舶の安全運航をサポートしています。漁船に気象や海の状況などの重要な情報を伝えるだけでなく、緊急時には漁船の最後の砦となる連絡先でもあります。また、漁業調査指導船は水産業振興において重要な役割を担っており、船舶局職員は、円滑な航行を確保する上で不可欠な存在です。

無線通信職の仕事が、陸上局、船舶局ともに、船の安全を確保し、水産業振興に大きく貢献するものであることを理解し、強い使命感と誇りをもって働きたいという方をお待ちしています。

5

初任給・休暇・福利厚生

<初任給> (令和6年4月1日現在)

Ⅱ類 228,300円 Ⅲ類 214,500円

* 初任給は、給料月額に特勤手当、地域手当を加算したものです。

* 職歴等がある場合は、一定の基準により加算されることがあります(上限あり)。

* 上記のほか、準特勤手当、扶養手当、期末・勤勉手当などが支給されます。

<休暇>

- ・ 年次有給休暇20日
- ・ 妊娠・出産・育児に関する休暇、慶弔休暇、夏季休暇、介護休暇、ボランティア休暇、長期勤続休暇など
- ・ 育児に関する休業制度も整備されています。

<福利厚生>

- ・ 職員住宅に入居可能(徒歩約5分)
- ・ 東京都共済組合：医療保険、年金、福利厚生施設の運営など
- ・ 東京都人材支援事業団：生命・損害保険の取扱い、各種助成、貸付・給付金など

東京から南へ約1,000km離れた小笠原諸島。内地と小笠原を結ぶ唯一の交通手段は、概ね6日に1便、東京の竹芝桟橋から片道24時間かけて運航される定期船「おがさわら丸」、通称「おが丸」に限られています。小笠原諸島で人が住んでいる島は父島と母島の2島ですが、ここでは働く場所となる“父島”を中心にくらしと魅力を紹介します。



定期船「おがさわら丸」

小笠原のくらし

気候・天気

年間を通じて気温の変化が小さいので過ごしやすく、最高気温は夏で32度、冬で20度くらいであり、真夏は内地より気温が低いです。ただ、日差しは強く、湿気は多いです。ちなみに、海開きは1月1日で日本一早く、ほぼ1年中泳ぐことができます。

公共交通機関

島内は公共交通機関は村営バスのみです。多くの人が自家用車、バイク、自転車で移動しています。ほとんどの施設は中心部にあり、島内の主要スポットは車やバス15分程度で行くことができます。

通信環境

光ファイバーが開通しており、インターネットは快適に利用できます。携帯電話の電波については、島内の中心部から離れたエリアで受信しづらくなります。

食料品・日用品

中心街に商店が2～3店舗あり、ここで食料品や日用品を購入できます。商品は1週間に1回程度のおがさわら丸で入荷されますが、入荷日は1週間のうちで最も商店が混雑します。インターネット通販も、一部対象外もあり届くまで日数がかかりますが、利用することができます。

医療機関

村営の診療所と民間の歯科医院があります。島内で一般的な診療を受診することができますが、対応できない怪我や病気の患者が発生した時には、自衛隊のヘリ・飛行機で内地の病院へ搬送されます。

教育・子育て

父島には小学校、中学校、高校のほか、保育園などの託児施設もあります。東京の島しょの中では子供も多く安心して子育てできる環境です。また、習い事の種類の多さ、太鼓、フラダンス、英会話、スポーツ全般と多く、子供たちがのびのびと活動しています。

趣味・娯楽

自然豊かで、釣り、ダイビング、トレッキングを趣味にしている方が多く、スポーツや楽器などのサークル活動も盛んに行われています。飲食店も充実しており、お酒をたしなむ方も多くいます。



小笠原の魅力

小笠原諸島は、最後の秘境や楽園といわれる“世界自然遺産”の島です。ボニブルーといわれる透明で碧い海、クジラやウミガメ、彩り豊かな珊瑚や魚。山や森には、小笠原だけで見られる固有種の植物や鳥。夜空を見上げれば満点の星空が迎えてくれます。市街地には南国らしいハイビスカス・バナナ・ヤシの木があり白い砂浜も目の前です。散策スポットはたくさんあり、のんびりリフレッシュすることができます。



小笠原ならではの生活環境もあります。

内地から移住してきた人たちの寛容な島民性もあり、お互いに助け合う雰囲気があります。生活サイクルは、曜日ではなく、おがさわら丸の入出港に合わせて回っています。もう一つの有人島である「母島」は、父島から定期船「ははしま丸」で2時間です。自然がさらに豊かで固有種も多く、父島とは一味違う魅力があります。

